

僕たちはずっと
檻の中で苦しんでいた。

枠の中にいる君 枠の外で待つ僕

00.四則演算

数学的な問が投げかけられると答を求めようとする。答を導くには四則演算という一種の道具を使わなければならない。当然道具を使うだけではダメである。その問題の本質を掴まなければ答に辿り着くことは困難であるからだ。

これは数学に限った話ではない。現代社会も同じようにあらゆる物事に対して本質を掴まなければならない。

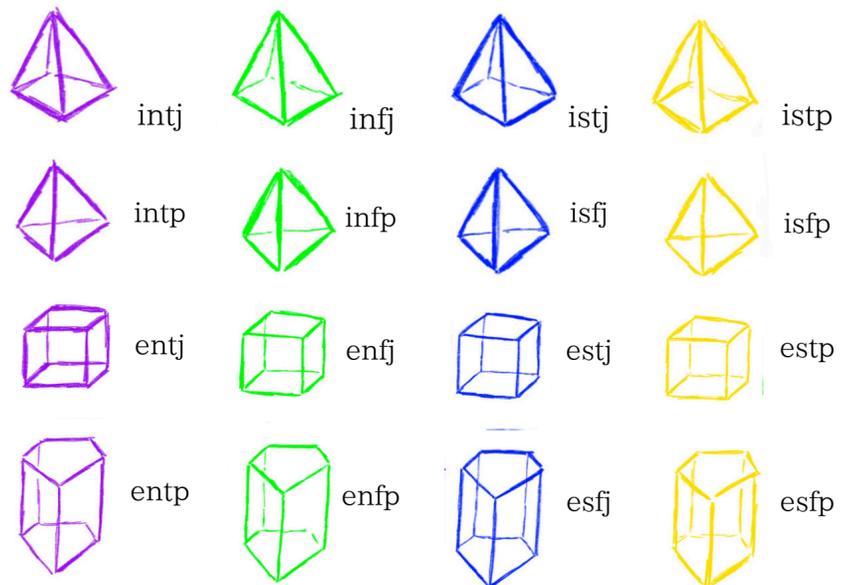
01.本質

情報が飛び交う現代において、本質を見抜くことがなくなりつつあると実感する。SNSの普及により、他人と比較して自分が『優』か『劣』か枠組みを作ってカテゴリ化する。都合のいいようにカテゴリ化することで自分の居場所を作って安心感に浸る。枠の中に自分が入り表面上でやり取りを行うことで本質を掴めなくなりつつある。



03.concept

カテゴリ化を通して枠にはまりながら生きるこの現代社会を「16personalities」を例に建築を通して創造する。本来見えない枠を視覚化して僕たちの生きるこの世界の現状を考える。



02.What is your type?

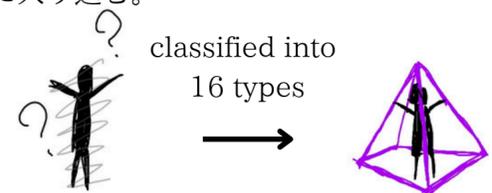
カテゴリ化の一つの事例として自分の性格を16の種類に分ける「16personalities」という性格診断が流行っている。16のタイプに分類することで自身の強み、弱み、人間関係の相性などがわかるものだ。自分を見つめ直す用途としてふさわしいもののはずが、表面上の枠を見るだけで枠の内部の本質を得ようとせず、対人関係を通して生きづらくなっているのではないだろうか。

本来カテゴリ化することで自身のアイデンティティを獲得するもののはずが逆にアイデンティティを損失していると考えられる。

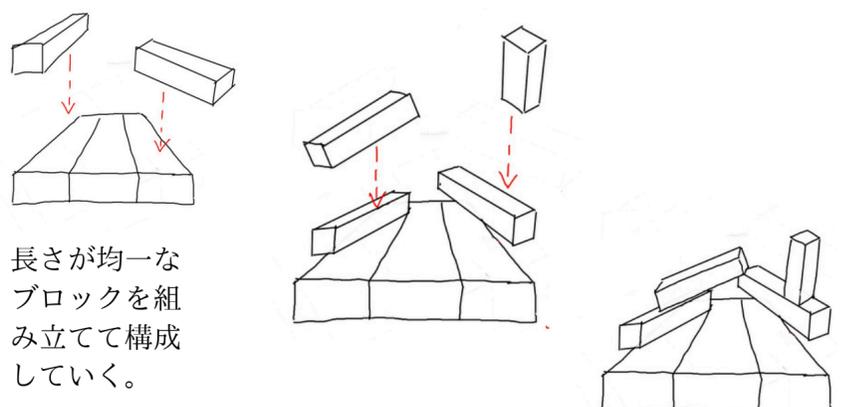
intj		infj
intp		infp
entj	分析家	enfj
entp	番人	enfp
istj	探検家	istp
isfj		isfp
estj		estp
esfj		esfp

04.scheme diagram

色、構造を16通り設けて枠を視覚化し、カテゴリ化する。自身のタイプに該当する枠の中に入り込む。



05.site diagram



06.context

誰も知らない場所にある海に埋め建てられた人工島。

無機質な打ち放しコンクリートの構成が現代社会の冷たさを表す。ジェンガのように上へ上へと長い年月を経て建てられていった。

海底、地上、天空の3つの空間領域に隔てた。人間は地上の中で生活を行う。人間が生活する地上の世界と海底と天空の相互関係を「カテゴライズ」を軸に創造していく。

地上

今の僕たちは先人たちが築き上げた時代の上に足をつけて生きている。何千年とかけて積み上げられて今を僕たちは生きる。僕たちは常にカテゴライズする。枠に囚われたことで生きづらくなり、先人が積み上げてきたジェンガを綺麗に並べることさえ出来なくなってしまった。今にも崩れそうな崩壊した地上で人々は生きる。コンクリートの下に埋もれた僕たちは太陽の光が届きにくい暗くて冷たい無機質な空間で生活する。

天空

僕たちはカテゴライズされ、枠に囚われたことで周りの目を気にするようになった。水平方向にしか視野を通せず、空の景色は誰もわからない。僕たちが見ている世界は単一色の無機質のコンクリートの下に積まれた不安げな世界しか知らない。社会がカテゴライズして枠にはめたモノが仮に「四角形」だとしても本質を覗けば「三角形」かもしれない。いや、「丸」かもしれない。もしかしたら、色がついているかもしれない。真実は誰にもわからない。

海底

ground levelに足をつけて人間は生まれた。まだ何もなかったこの世界に先人たちは火を起こした。村を作った。ルールを設けた。国家を形成した。時代と共にテクノロジーが変革した。何もなかったground levelから文明を発展させていった。ジェンガのように一本一本上へ上へと先代へ継承するために技、知、制などを長い年月をかけて積み上げていった。足して引いてかけて割って...崩れないように、崩さないように、慎重に積み上げていった。答えがない先の見えない社会を生きるために先人たちは試行錯誤しながらもがき続けた。



南東側方向立面図

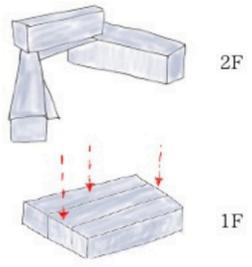


東側方向立面図



平面図

07.地上で生きる僕たち



視覚化された枠を通して生活する。幸せを追い求めて自分と相性の良いタイプを探しながら生活する行為を行う。どのような生活が行われるか創造する。人間は1、2階で生活する。

移動する際は枠と共に移動しなければならない。相性の良いタイプを見つけたら以下の過程を通した行為を行い、生活する。



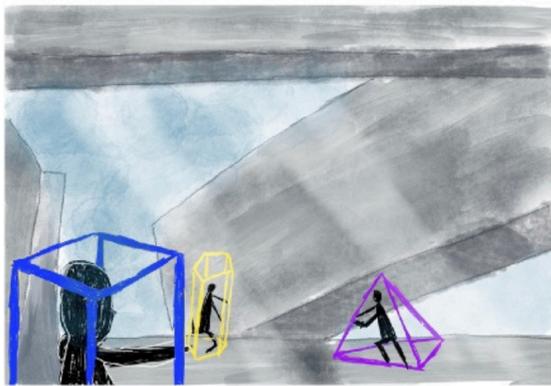
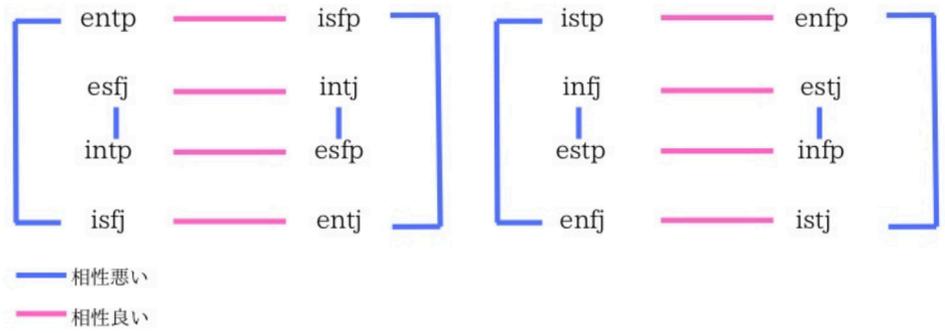
相性の良いタイプを見つけて



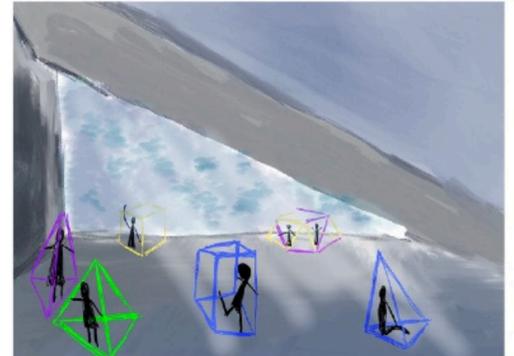
互いの枠を共有する



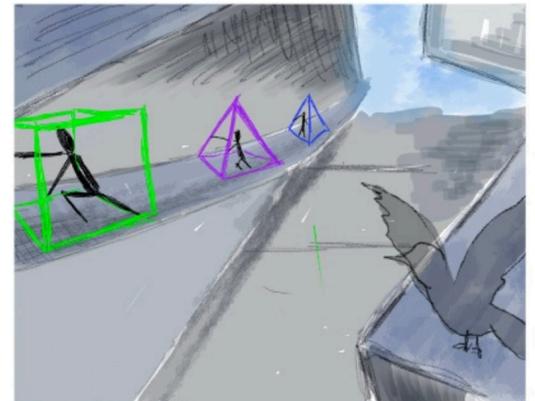
この世界に一つの枠を作り、共に生きる



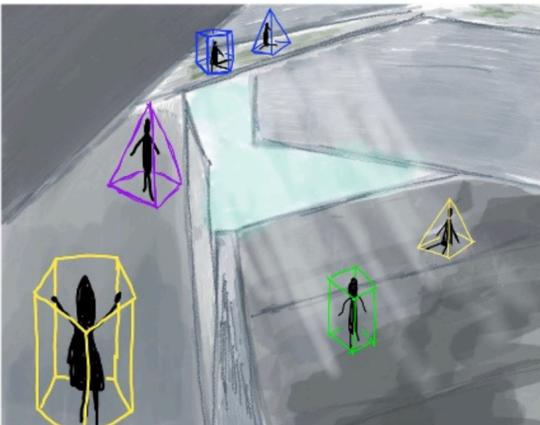
相性の良いタイプを見つけて相手に向かう様子。自分に関係ない人間には全く興味を示さない。



相性の良い人はどこだ？
自分が幸せになるために探し続ける



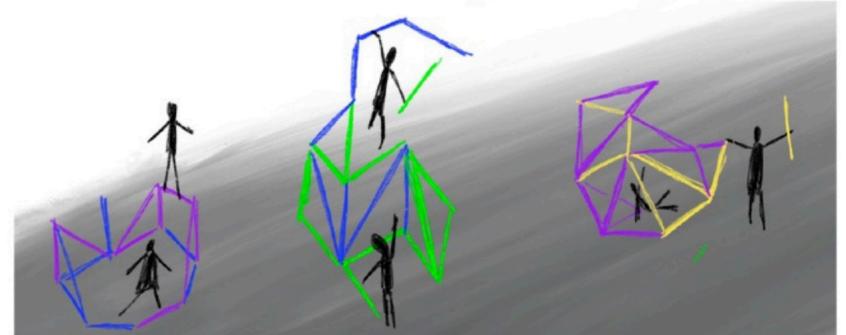
坂で登って2階へ



2階兼1階の様子

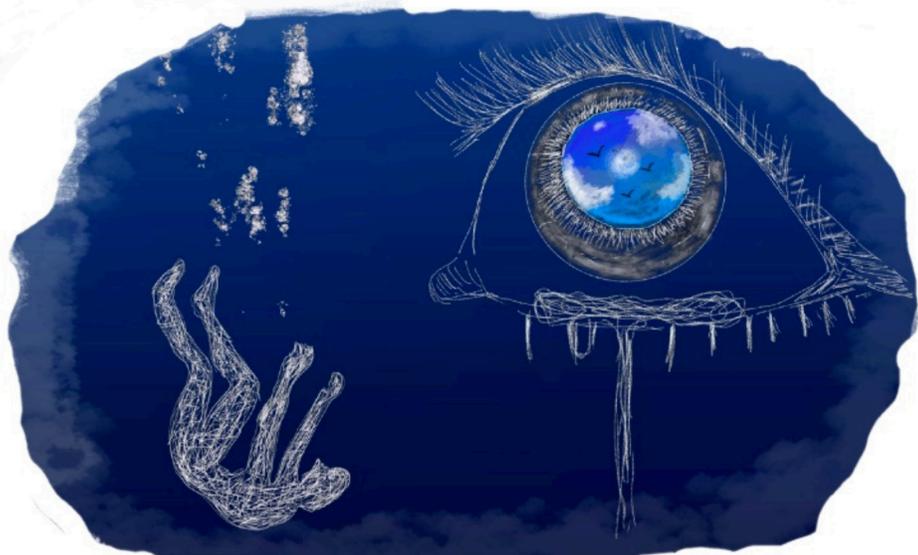


相性の良い人と出会うことで枠を共有して一つの枠を構築し、共に生きる。



相性が合う者同士で作る空間

枠で人を判断する世界。自分にとっての相性が高い人と巡り会うために島中を探し続ける。枠組みで人を判断し、本質を得ようとせずカテゴライズし続けるこの世界は一体幸せと呼べるのだろうか？



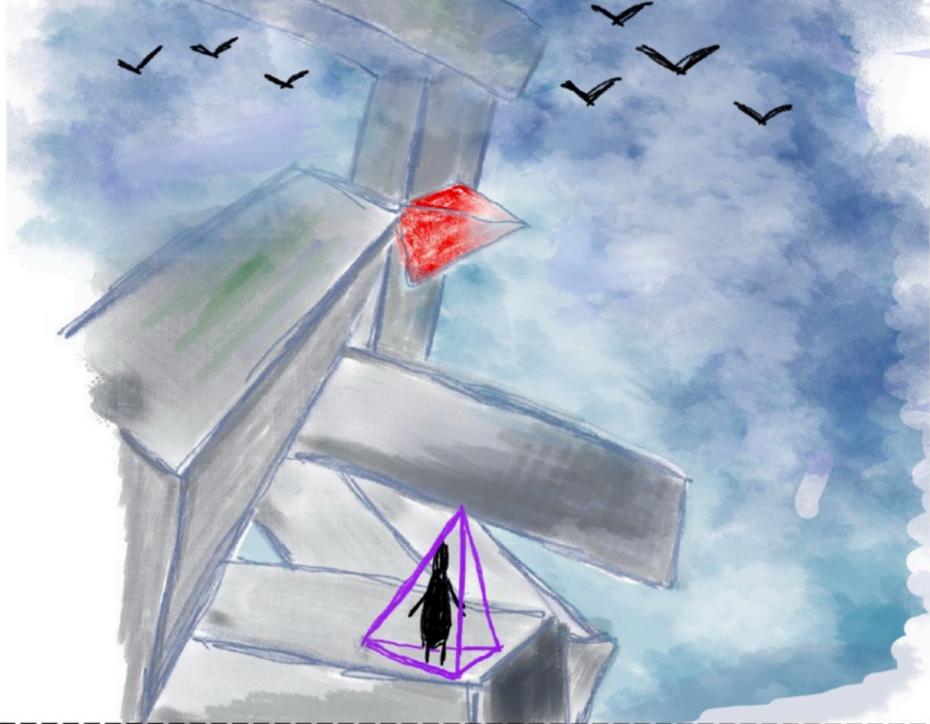
枠に囚われて
 いつしか海の深さも
 空の青さも
 忘れてしまった....

08.海の深さも空の青さも

僕たちは枠に囚われて周りが見えなくなってしまう、海の深さも空の青さも忘れてしまった。自分をカテゴライズし、枠に囚われ周りの目を気にするようになった。水平方向にしか目が通せず、周りの景色を見る余裕が生まれなくなってしまう、海の深さも空の青さも忘れてしまった・・・

しかし、思い出すことだってできる。動き続ける社会に逆らってちょっと立ち止まり、上を見上げることで天空の様子が伺え、空の青さを思い出せるはずだ。カテゴライズに夢中になっている周りからちょっと離れて海の近くに向かい、地上から俯瞰して海の深さを思い出すことだってできるはずだ。

一見簡単な行為に見えてもカテゴライズして枠にはまってしまったことで簡単なことさえ出来なくなってしまうのかもしれない。

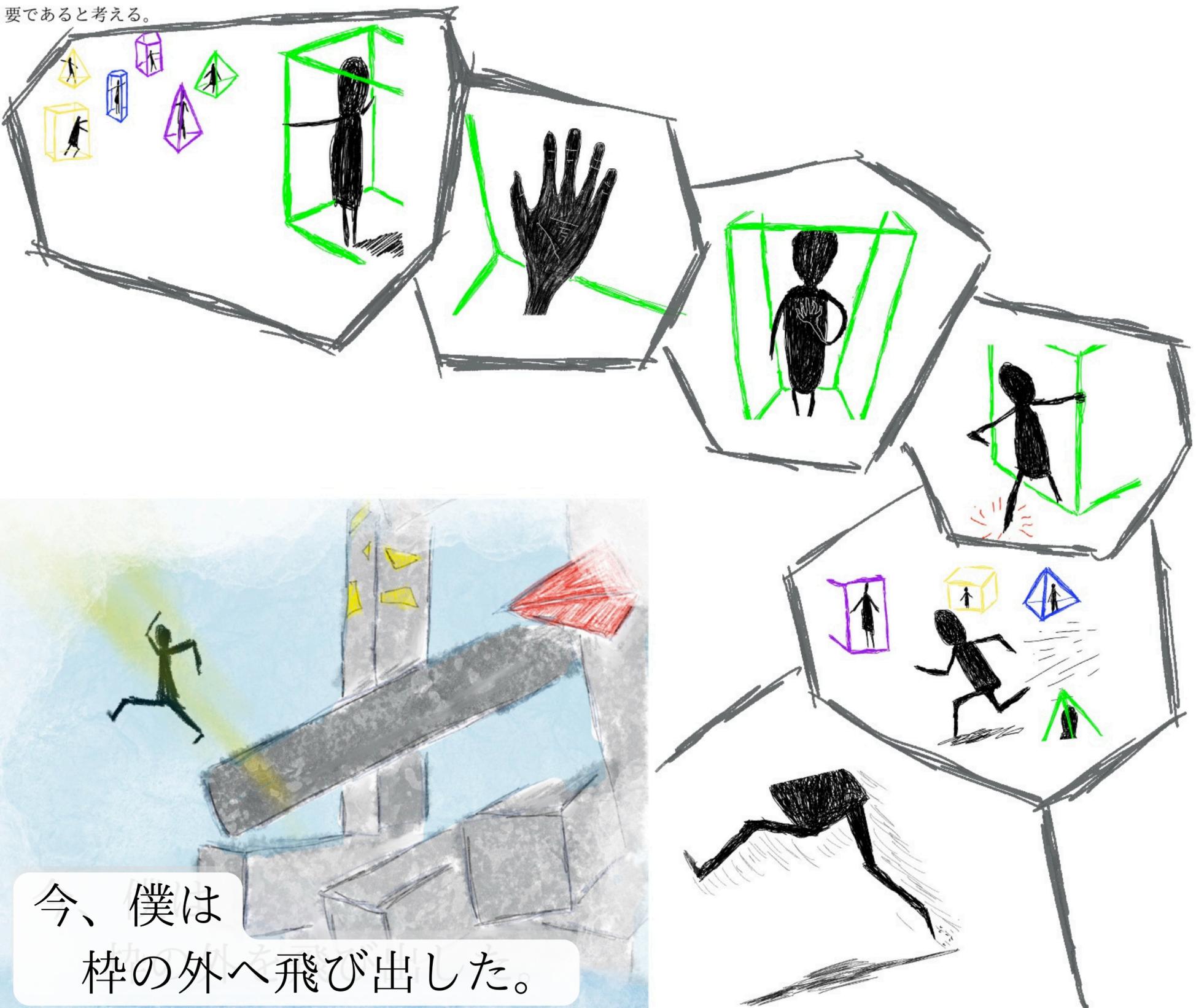


09.解釈

この世界は都合よくあらゆるものをカテゴライズをする。これは人間の生物学的本能であるので仕方がないことかもしれない。しかし、現代において過度なカテゴライズ思考により、アイデンティティを損失しかねない。枠は社会の居場所を作る安心感に浸れると同時に檻という苦しみに変わる。

今回は「16personalities」のタイプ診断を用いてこの現代社会を創造したが人間がカテゴライズする対象は「16personalities」だけでなく、性別や国籍など様々なジャンルがある。カテゴライズすることで複雑なモノを単純化できているように見えるが実際はカテゴライズする対象物のアイデンティティを殺しにかかっているのではないだろうか。「16personalities」のタイプ診断でその人の全体像がわかるはずもないのに「あの人は〇〇のタイプだから…」「私は〇〇のタイプだから…」と過度なカテゴライズ思考をする。表面上の枠組を見るだけで枠の内部にある本質を僕たちは得ようとしない。情報社会になって僕たちは利便性を求めるようになり、枠の表面だけでやり取りを終わらせようとする。「利便性」＝「幸せ」と唱えるこの時代であるがアイデンティティを損失してまでカテゴライズする行為を幸せと呼ぶことはできないのではないだろうか。

自分が自分であるためにアイデンティティを確立してこれから生きていくには枠に囚われず、社会の常識に縛られないことが必要だと考える。また、本質を得るために表面的な枠組みに囚われず、先入観や概念を疑うことが強いられると考える。枠組みというカテゴライズを引き起こして生まれたノイズをかき消すためには人工島の創造を通して考察したことからわかるように社会に逆らっても天空と海底を思い出す色々な視点を持って見極めることがこの先を生き抜くために必要であると考えます。



今、僕は
枠の外へ飛び出した。